

「三瓶版モデル型体験活動開発事業」

～特色化事業&実践研究事業～

1 趣 旨

地元大田市の公立小学校と連携し、当所での集団宿泊活動を通して児童・生徒の変容を調べることで、学校側のねらいや実情を踏まえた「自己肯定感」と「他者理解」の育成支援に係る、具体的方策のあり方について研究し、プログラムの開発を進める。

2 事業の概要

(1) テーマ:「自己を見つめ、他者とつながる人間力の育成」

(2) 主 催: 国立三瓶青少年交流の家

(3) 後 援: 大田市教育委員会

(4) 協 力: 大田市立仁摩小学校 5年生 21名

(5) 講 師: 島根県立大学松江キャンパス 人間文化学部 保育教育学科
准教授 山田 洋平 氏

| | |
|-------------------------|-----------------|
| (6) 日 程: ○アンケート (1回目) | 令和3年 7月 15日 (木) |
| ○出前授業 (SAP)、アンケート (2回目) | 令和3年 9月 17日 (金) |
| ○宿泊体験学習 | 令和3年 9月 29日 (水) |
| | 〃 |
| ○アンケート (3回目) | 令和3年 10月 1日 (金) |
| ○アンケート分析 | 令和3年 10月 4日 (月) |
| ○考察 | |

3 事業の背景

令和2年度から新型コロナウイルス感染症が全国的に拡大し、当所を利用している小中学校で、集団宿泊活動を縮小・延期または中止する学校が多くみられるようになった。令和3年6月に国立青少年教育振興機構青少年教育研究センターから出された「国立青少年教育施設における小・中学校の集団宿泊の行事に関する調査～コロナ禍における安心安全に配慮した体験活動の在り方～」によると、集団宿泊活動を実施した小中学校のうち、「1泊2日」での実施が88.4%、「2泊3日」での実施が11.6%、「3泊以上」での実施が0%という結果から、集団宿泊活動が全国的に縮小傾向にあることがわかる。また、同調査からは「当初の計画から時期を延期」と回答した小中学校が76.8%、「当初の計画から日数を縮小」が35.8%と、新型コロナウイルス感染症の拡大を理由に縮小・延期をしている小中学校が多くあると考えられる。さらに、「施設までの移動中における児童・生徒同士の接触による感染」に不安を感じている教員も多くおり、長時間のバスなどでの移動も避ける傾向にある。

以上のようなことを踏まえると、今後、集団宿泊活動が「短く近く」実施されていくことが予想される。そのような状況にある中、当所としては具体的な根拠に基づき集団宿泊活動の教育効果を発信する必要があると考えた。平成21年に文部科学省が発行した「農山漁村での長期宿泊体験による教育効果について」(報告)では、集団宿泊活動における教育効果として、人間関係・コミュニケーション能力や自主性・自立心の向上、マナー・モラル・心の成長などが挙げられている。そこで、当所では、上記のうち「人間関係・コミュニケーション能力や自主性・自立心の向上」に着目し、「自己肯定感と他者理解」というキーワードで集団宿泊活動の教育効果を発信することとした。

4 事業構想（資料1）

（1）「教育テーマ」に基づくメインプログラムの設定

独立行政法人国立青少年教育振興機構では、全国 28 の地方施設がそれぞれの特色に基づいた「教育テーマ」を新たに設けることにより、各施設の更なる個性化・高度化・拠点化を図る取組を進めている。このことを受け、当所では、「自己を見つめ、他者とつながる人間力の育成」を「教育テーマ」として掲げている。

本事業はこの「教育テーマ」に基づき、三瓶山を舞台にした「登山」と人間関係プログラム「SAP」をメインプログラムに設定することで、児童の「自己肯定感と他者理解」の変容について調査・研究を進めることとした。

（2）研究者との連携

集団宿泊活動の教育効果を発信するためには、子供たちの変容を分析し、考察する必要がある。そのための指標として、学校教育でも実践をされている心理教育プログラム「社会性と情動の学習（SEL）」を活用し、子供たちの変容を調べることとした。SEL では8つの社会的能力を、アンケートを用いて調べることができる。8つの社会的能力とは、

- ①自己への気づき
- ②他者への気づき
- ③自己のコントロール
- ④対人関係
- ⑤責任ある意思決定
- ⑥生活上の問題防止スキル
- ⑦人生の重要事態に対処する能力
- ⑧積極的・貢献的な奉仕活動

である。上記8つの指標のうち、当所の「教育テーマ」と関連する①～⑤の指標についてアンケートを行い、変容を調べることとした。

そこで、教育心理学を専門とし、SELの研究に実績がある島根県立大学准教授山田洋平先生に、本研究の進め方やアンケート結果の分析・考察について、指導・助言をいただきながら取り組むこととした。

（3）地元大田市との連携

本研究を実施していく上で、①当所において集団宿泊活動を実施する予定があること、②アンケート調査への協力が得られること、の2つの条件を満たす協力校が必要になる。当所の所在地である島根県大田市では、集団宿泊活動を当所で行うよう大田市教育委員会が市内の公立小学校に働きかけているため、本研究は、大田市教育委員会からも全面的な支援を得ることができた。

令和3年度「三瓶版モデル型体験活動開発事業」の実施

大田市教育魅力化ビジョン基本計画「基本方針1 生き抜く力を育てる」施策②体験活動による確かな学力の育成の中で、「コミュニケーション力の育成」と「人間関係づくり」を目指す長期宿泊体験活動等の推進が挙げられている。国立三瓶青少年交流の家として大田市内小学校へ向けて効果的な宿泊体験学習を支援するため、三瓶版モデル的事業の実施を行っていく。

長期宿泊体験学習（大田市内小学校）

※モデル実施校：令和3年度 大田市内立仁摩小学校

各校の長期宿泊体験学習のねらいに基づき、より効果的な宿泊体験学習を目指す。

【実施について】

- ア. 長期宿泊体験学習の実施
- イ. モデル的体験活動の実施
(例: SAP、登山等)
- ウ. 学習方法を活用する
(アンケートの実施、分析)
- エ. 研修支援等の充実
(訪問による事前打ち合わせ、活動日程相談等)

大田市内小学校と国立三瓶青少年交流の家が、子供たちが効果的な体験活動ができるよう相互の特長を生かしながらより協力・連携を深めていく。

国立三瓶青少年交流の家

当所教育テーマ「自己を見つめ、他者とつながる人間力の育成」に基づき、宿泊体験学習を行う。

【実施について】

- ア. 大学の研究者等と実践研究の実施
- イ. モデル的体験活動を支援
(例: SAP、登山等)
- ウ. 効果・測定等を行い、体験活動の重要性を図り、実施校への情報提供・還元を行う
- エ. 実施校への研修支援の充実

主体的に課題を見つけ、様々な他者と協働しながら、定まった答えのない課題にも粘り強く向かっていく力(生き抜く力)の育成に寄与する。

5 研究について

(1) 協力校について

本研究初年度ということもあり、モデル実践校として大田市立仁摩小学校1校（5年生、1クラス21名）と連携し、試行的に研究を進めていくこととした。

(2) 集団宿泊活動の日程について

モデル実践校と集団宿泊活動の日程について2回打合せを行った。当初は、3泊4日の想定であったため、日程の中に「登山」と「SAP」の両方を取り入れていたが、実際の日程は2泊3日に短縮された。そのため、「SAP」については、集団宿泊活動の直前に出前授業として行うことで、「登山」と「SAP」の両方の活動ができるようにした。

I. 出前授業（図1）

| | | | | | | |
|--------------|------|-----------------|-------|-------|-------|-------|
| | 9:00 | 12:00 | 15:00 | 18:00 | 21:00 | 22:30 |
| 9月17日 (金) | | 出前授業 (S A P) | | | | |

図 1 出前授業の日程

II. 当所における集団宿泊的行事（図2）

| | | | | | | | |
|--------------|------|------------------|-----------------------------|-----------|------------|-----------------------|----|
| | 9:00 | 12:00 | 15:00 | 18:00 | 21:00 | 22:30 | |
| 9月29日 (水) | | オリエンテーション 入所 | アウトドアクッキング (シチュー、はなまるパン) | オリエンテーリング | 夕食 入浴 | ファイヤー ーストーム 班長会 | 就寝 |
| 9月30日 (木) | 9:00 | 12:00 | 15:00 | 18:00 | 21:00 | 22:30 | |
| | | 登山 (男三瓶山) | カブラ | 夕食 入浴 | 肝試し 班長会 | 就寝 | |
| 10月1日 (金) | 9:00 | 12:00 | 15:00 | 18:00 | 21:00 | 22:30 | |
| | | 野外炊飯 (ビーフカレー) | 退所 | | | | |

図 2 2泊3日の集団宿泊的行事の日程

(3) アンケートについて

SEL-8S (Social and Emotional Learning of 8 Abilities at School) の効果を測定するためのアンケートを実施した(資料2)。アンケートは、モデル実践校の集団宿泊活動実施日(令和3年9月29日(水)~10月1日(金))を基準とし、

- I. 事前アンケート(1回目) 令和3年 7月 15日(木)
- II. 事前アンケート(2回目) 令和3年 9月 17日(金)
- III. 事後アンケート(3回目) 令和3年 10月 4日(月)

の計3回実施した。集団宿泊的行事の教育効果を図るために、1回目のアンケートは、児童の日常における実態を把握するために、集団宿泊活動の前に実施した。2回目は、出前授業(SAP)後、3回目は、集団宿泊活動後にそれぞれ実施した。

学校生活についてのアンケート【小学生用】

このアンケートは、テストではありません。答えたことについて先生から何かを言われたり、人に教えたり人と比べたりすることはありません。正しい結果を出すために、正直に答えて下さい。

●答え方 (例) のように、あなたの答えに、一つだけ、はっきりと○で囲んでください。

例) 家の中よりも、外であそびたいと思う。

4. いつも、思う 3. ときどき、思う 2. あまり、思わない 1. ぜんぜん、思わない

1) 自分の気持ちができる。

4. いつも、わかる 3. ときどき、わかる 2. あまり、わからない 1. ぜんぜん、わからない

2) 友だちのいいところを、見つけることができる。

4. いつも、できる 3. ときどき、できる 2. あまり、できない 1. ぜんぜん、できない

3) いやなことがあっても、やつあたりをしない。

4. ぜんぜん、しない 3. あまり、しない 2. ときどき、してしまう 1. よく、してしまう

4) 友達の気持ちを考えながら話す。

4. いつも、そうする 3. ときどき、そうする 2. あまり、そうしない 1. ぜんぜん、そうしない

5) 自分だけ意見がちがっても、自分の意見をはっきり言う。

4. いつも、そうする 3. ときどき、そうする 2. あまり、そうしない 1. ぜんぜん、そうしない

6) 自分の気持ちの変化がわかる。

4. いつも、わかる 3. ときどき、わかる 2. あまり、わからない 1. ぜんぜん、わからない

7) 友達の気持ちがわかる。

4. いつも、わかる 3. ときどき、わかる 2. あまり、わからない 1. ぜんぜん、わからない

8) ムカついても、どならない。

4. いつも、どならない 3. あまり、どならない 2. ときどき、どなる 1. よく、どなる

9) 相手がきずつかないように話している。

4. いつも、そうする 3. ときどき、そうする 2. あまり、そうしない 1. ぜんぜん、そうしない

10) ものごとを、よく考えてから決めることができる。

4. いつも、そうする 3. ときどき、そうする 2. あまり、そうしない 1. ぜんぜん、そうしない

11) 自分のできることとできないことがわかっている。

4. よく、わかっている 3. 少し、わかっている 2. あまり、わかっていない 1. ぜんぜん、わかっていない

12) 友達が何かをじょうずにできたとき、「じょうずだね」とほめる。

4. いつも、そうする 3. ときどき、そうする 2. あまり、そうしない 1. ぜんぜん、そうしない

13) いやな時には、人とケンカにならずに、「いやだ」と自分の気持ちを言える。

4. いつも、言える 3. ときどき、言える 2. あまり、いえない 1. ぜんぜん、言えない

14) 人の話をしっかり聞く。

4. いつも、しっかり聞く 3. ときどき、しっかり聞く 2. あまり、聞かない 1. ぜんぜん、聞かない

15) 係(かかり)の仕事をする時、何をどうやったらいいか、自分で考えて決める。

4. いつも、そうする 3. ときどき、そうする 2. あまり、そうしない 1. ぜんぜん、そうしない

小学校____年____組____番 名前 () (男・女)

ご協力、ありがとうございました。

1) ~ 15) まで、全て答えているか、確かめて下さい。

クラスごとに、出席番号順になるように、重ねて集めて下さい。

今日の日付

□ 月 □ 日

(4) アンケート集計の見方

集計したアンケートは、前述した①～⑤の社会的能力が、項目ごとに個人・学級の偏差値としてグラフ化できる (図3、4)。

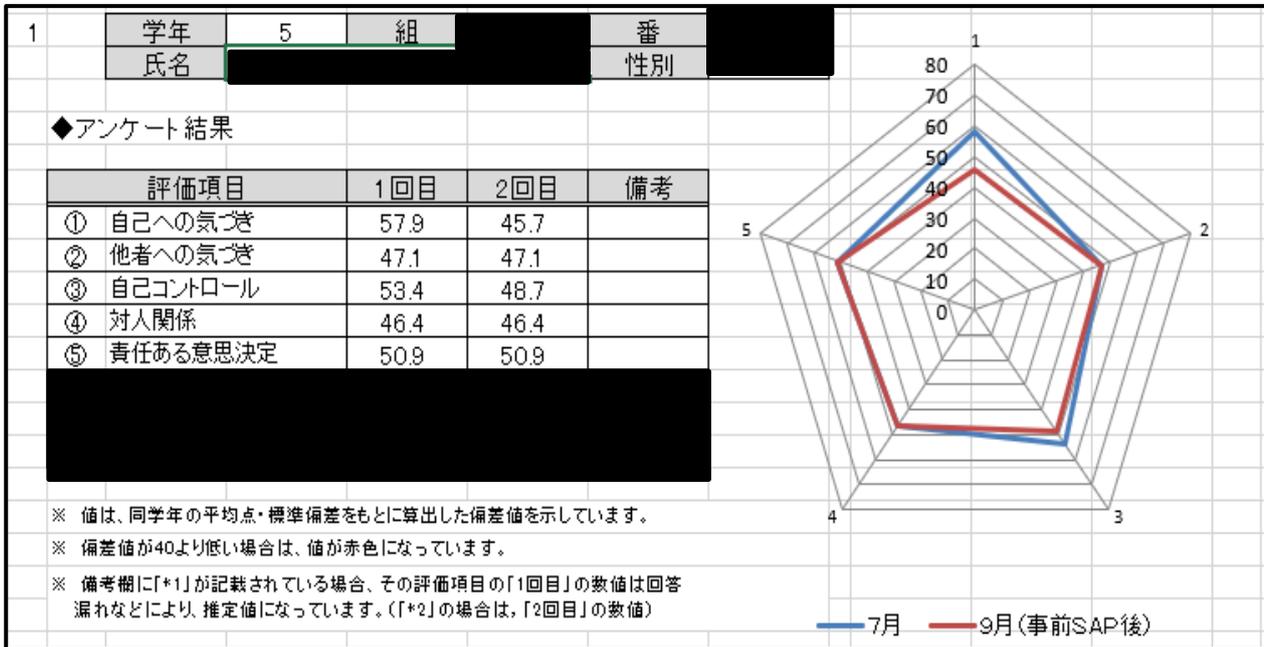


図3 ①～⑤の社会的能力 個人グラフ

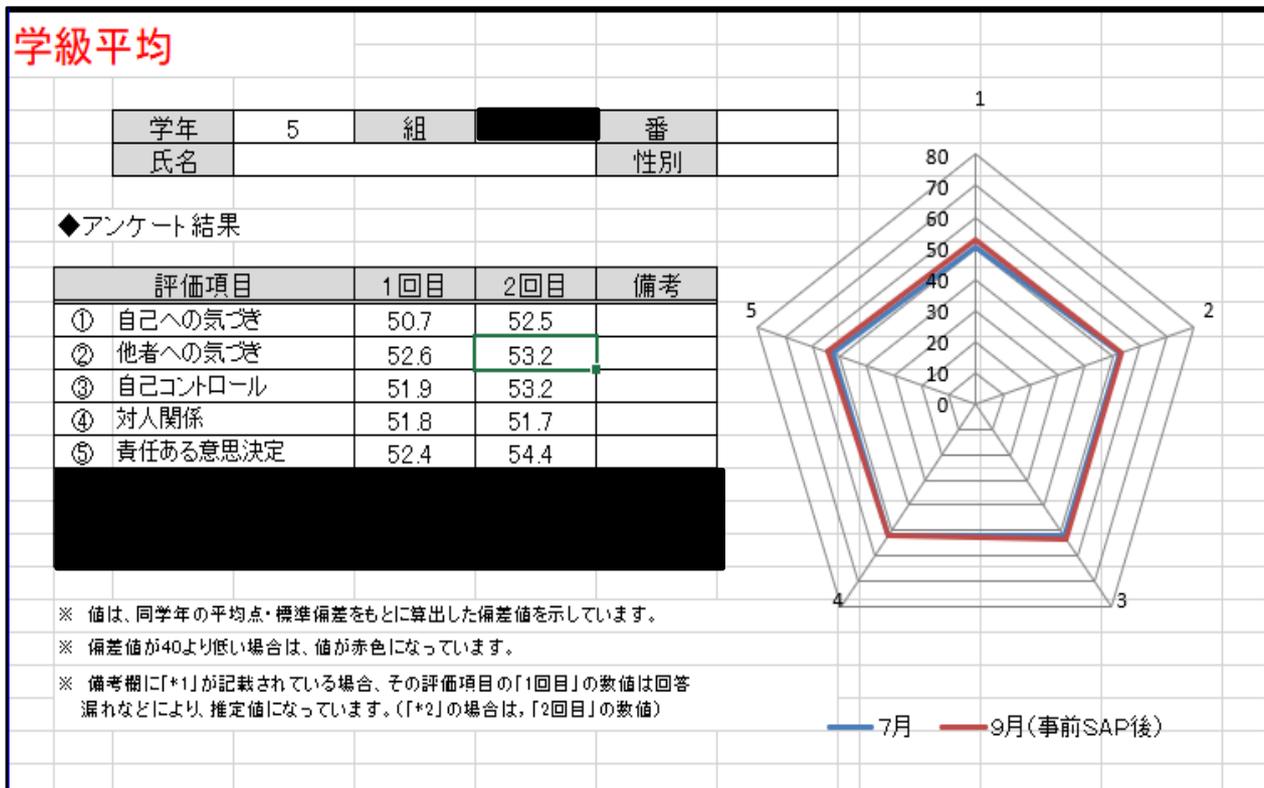


図4 ①～⑤の社会的能力 学級グラフ

(5) 予想される結果

計3回のアンケートを通して、学級平均は、「登山」と「SAP」の両方を行った集団宿泊活動後のアンケートの偏差値が最も高くなることが予想される。

1回目と2回目のアンケートでは、「SAP」で様々なアクティビティを通して自己選択や決定を行っていくため、2回目のアンケートの「⑤責任ある意思決定」の項目が上がると予想される。その他の項目についても、多少の個人差は出てくるものの1回目から2回目では、全体的に偏差値が上がることが予想される。

6 研究結果

(1) アンケート結果（学級）

| 評価項目 | 1回目 (事前) | 2回目 (出前授業後) | 3回目 (集団宿泊活動後) |
|-----------|-------------|----------------|------------------|
| ①自己への気づき | 50.7 | 52.5 | 53.6 |
| ②他者への気づき | 52.6 | 53.2 | 52.3 |
| ③自己コントロール | 51.9 | 53.2 | 54.8 |
| ④対人関係 | 51.8 | 51.7 | 52.1 |
| ⑤責任ある意思決定 | 52.4 | 54.4 | 52.6 |

図 5 1～3回目アンケート結果（学級）

(2) アンケート結果（個人）

※別添1

7 分析と考察

学級全体としては、平均としては大きな変容は見られなかった。児童の実態把握を目的として事前に学校を2回訪問したが、①～⑤の項目の中で顕著に課題となる項目がなかったことも大きな変容が見られなかった要因であるといえる。しかし、1回目～3回目を比べると偏差値が全体的に緩やかに上がっていることから、教育効果としては0とは言い切れない。個々のデータに着目すると、全体からは確認できなかった部分の変容が見られる。これは、学校訪問による実態把握や担任との事前打合せにおける課題設定が一定の成果をあげていたと考えられる。

また、アンケート集計の母体が少ないことも偏差値に大きな変化が見られなかった要因の一つであると考えられる。アンケート集計の際には、実験群と対照群について最低でも各群100名分のアンケートを集計し統計をとれば、ある程度根拠のあるデータといえる。

アンケート回数についても、1～3回目までの変容に加え、3回目以降の変容についてもデータとしてあれば、1年間を通した変容にも着目することができる。

8 成果と課題

(1) 成果

- ・研究者や大田市教育委員会と連携をしながら事業を進めることができた。このことにより、研究結果について専門家からの意見をいただきながら進めることができ、データを通して子供たちの変容をみることもできた。また、研究協力校への依頼も大田市教育委員会の全面的な支援により、スムーズに行うことができた。
- ・今年度、モデル実践校1校に協力いただき研究を進めた。研究の仕方や流れ、アンケート分析などについてのノウハウを得たことは、次年度以降の研究に大きくつなげることができる。
- ・アンケートについて、今年度は、学校教育の中でも活用されるSEL-8Sを使用した。アンケート結果を踏まえ、研究者の指導・助言を得ながら、今回使用したアンケート項目の見直し・改善を行い、より「教育テーマ」と合致したアンケート様式に作り変えることができた。

(2) 課題

- ・アンケートによって集団宿泊活動の教育効果を発信するためには、最低でも100名分の統計が必要であることがわかった。また、集団宿泊活動を実施していない学校にも協力いただき、対照となる統計（対照群）がとれば、より研究に厚みを持たせることができる。次年度へ向けて、大田市内への協力依頼だけでなく、必要に応じて島根県内の大田市以外の市町村へ向けても協力依頼を行う必要がある。
- ・今年度は、メインプログラムとして、「登山」と「SAP」の2つのプログラムを設定した。事業構想段階では、集団宿泊活動は3泊4日を想定していた。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大により、3泊以上で実施をする学校がなかった。今年度実践してみて、2泊3日の中で、「登山」と「SAP」の両方を取り入れ集団宿泊活動を実施することは、日程的に困難であることがわかった。次年度は、2泊3日を想定して、メインプログラムについても見直しを行う必要がある。
- ・今年度は、学級全体としては大きな結果は見られなかった。しかし、個々のデータには変容が確認できる部分もおおくあったことを考えると、2回の学校訪問による実態把握と担任との事前打合せによる課題設定が一定の成果をあげていたといえる。次年度は、この結果を生かし、学級・学年全体から見られる変容と個人の変容の2つのデータを見ながら研究を進めていく必要がある。個人のデータにも着目することで、学級の実態に応じて課題設定を行っていき、メインプログラムの高度化・特色化につなげることができると考える。

9 今後の取組

(1) メインプログラムについて

新型コロナウイルス感染症拡大が現在も懸念されているため、次年度も2泊3日の宿泊体験活動を想定する。そのため、メインプログラムを「登山」か「SAP」のどちらかに絞り、研究を進める。今年度は「登山」については、学級全員で登山を行う一斉登山だったが、学校側の目的やねらいによってはグループ登山を勧めるなど、「教育テーマ」を意識したメインプログラムの選定が必要である。

(2) アンケート調査の母数について

前述したように、具体的な根拠に基づいた教育効果を発信するためには、アンケート調査の母数を増やす必要がある。今年度は21名であったが、次年度は少なくとも本研究に関する100名の統計（実験群）と対照となる100名の統計（対照群）の計200名以上の協力を得る必要がある。また、より根拠に基づいた統計にするために、対照群については、研究者からの専門的な指導・助言をいただきながら進める必要がある。

(3) 地元大田市とのさらなる連携

アンケート調査の母数を増やすには、大田市との更なる連携が必要である。可能であれば、当所を利用している大田市の全公立小学校に協力いただきながら進めていきたい。その際、学校側の目的やねらいに即しながら子供たちの変容を測定し、分析・考察した結果を還元し、協力校にも情報提供を行っていく。